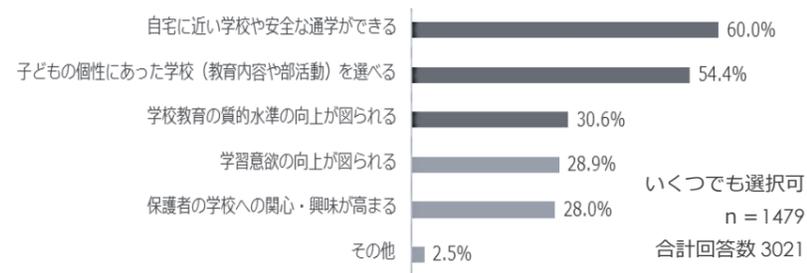
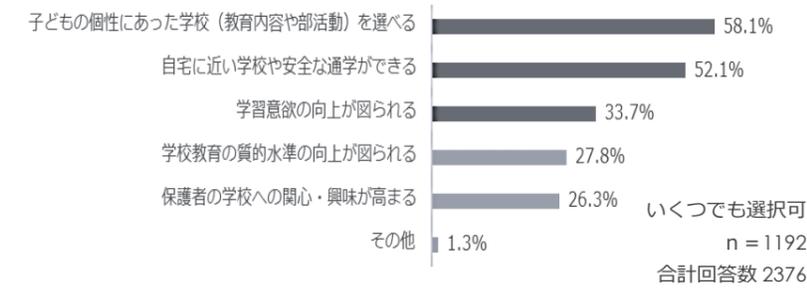


課題の検証及び現状と取組等について

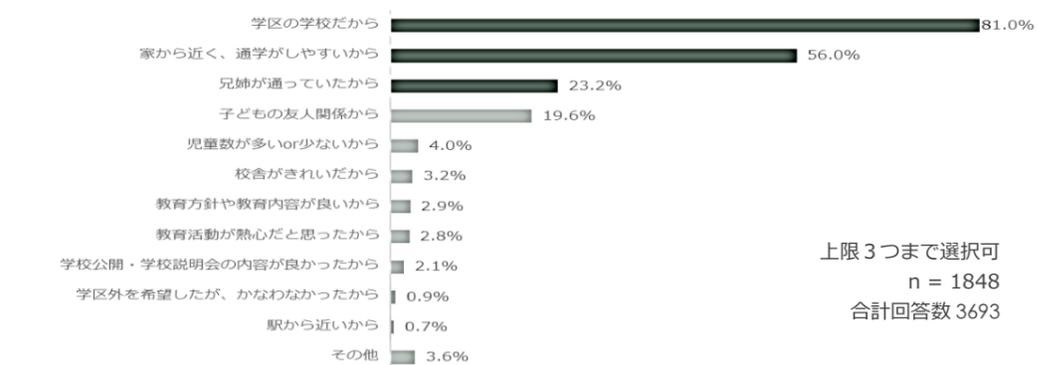
学校選択制度があつて良かったと思うもの（小1 & 小6 保護者）



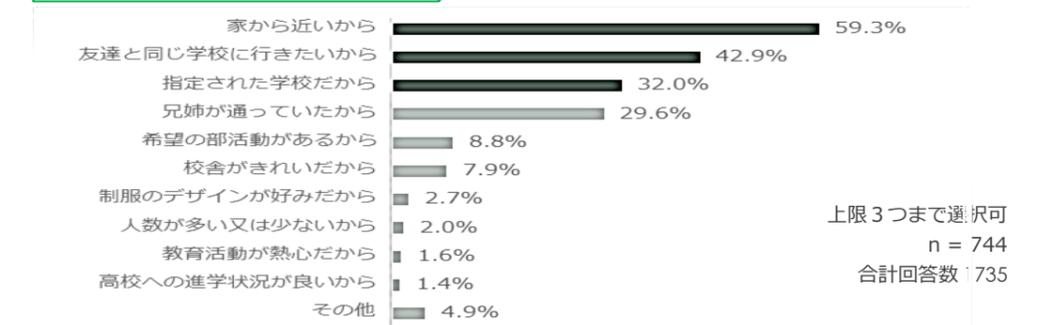
学校選択制度があつて良かったと思うもの（中1 & 中3 保護者）



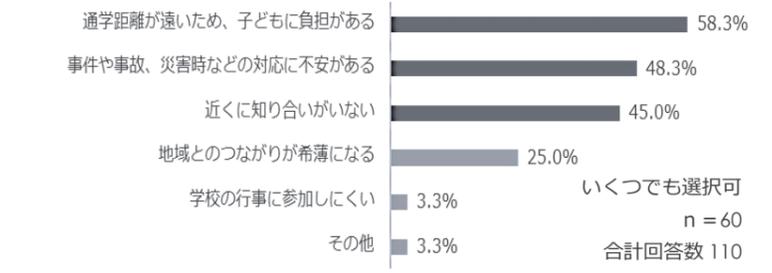
小学校を選んだ理由（小1 & 小6 保護者）



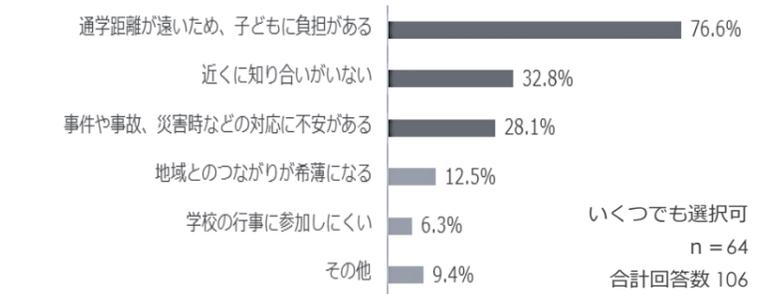
中学校を選んだ理由（小6 児童）



区域外の通学での不安や不便と思うもの（小1 & 小6 保護者）



区域外の通学での不安や不便と思うもの（中1 & 中3 保護者）



学校間の人数の格差

小学校保護者アンケート 第1位
中学校保護者アンケート 第1位
市民アンケート 第2位

【現状と課題等】

- 住宅開発による人口増や学校周辺の地域事情（駅近、住宅の形態）により児童生徒数や学校規模が異なる。
- 小さな規模の学校から比較的大きな規模の学校への流出。
- 学校の風評による増減。

【傾向と取組等】

- 市内人口の年齢別構成が地域間で異なり、住宅開発が進んだ地域は児童生徒数が横ばい又は増加傾向にある。
- 当面の児童生徒数の見込みと施設の状況を鑑み、受入枠の設定について、各小中学校と協議しながら対応している。

教員数の確保や教室の整備への影響

小学校保護者アンケート 第3位
中学校保護者アンケート 第2位
市民アンケート 第1位

【現状と課題等】

- 学級編制におけるクラス数の確定に時間を要し、教員の人事や教室の整備のタイミングを計ることが難しく、学校運営に影響する場合がある。
- 学校間の児童生徒数の出入が多いと将来的な児童生徒数の見込みが難しくなる。将来的な施設更新や修繕・改修を計画的な実施に関わる児童生徒数の推計に影響する。

【傾向と取組等】

- 小学6年生で、学校選択の申立てをしても、中学受験の後に辞退する場合がある。
- 各小中学校で、学級編制基準のボーダーラインの際には在校生の保護者へ転出予定の有無の確認を徹底するなどしている。新1年生は教育委員会と学校で連携しながら、入学予定者の確認を行っている。
- 各小中学校と人事の担当部署、施設の担当部署が情報連携しながら対応している。

登下校中の安全確保への影響

小学校保護者アンケート 第2位
中学校保護者アンケート 第3位
市民アンケート 第3位

【現状と課題等】

- 特に低学年の児童の事故が統計的に多い。
- 人口密度が高く、狭い道も多い。幹線道路の開通により周辺の道路の交通環境も変化してきている。
- 自転車、自動車を運転する方々へのモラルの徹底が必要。信号のない交差点を減速せずに通行する車両への注意喚起など関係者で協議・連携しながら対応していく必要がある。

【傾向と取組等】

- 各小学校において、通学路点検等を通じて、安全対策を講じてきている。
- 発達段階に応じて、家庭、地域、学校による安全指導が重要である。
- 地域安全に関する情報を児童生徒と家庭に提供し、意識啓発を図る。
- 中学生は、行動範囲も広がり、安全に登下校できるようになってきている。

制度の不公平感、地域と学校の関係の希薄化

保護者アンケート及び市民アンケート 第4位、第5位

【現状と課題等】

- 児童生徒数の増加により、施設面等の対応が厳しく、学校選択の受入枠を設定できない学校がある。
- 今後の年少人口の動向を注視し、将来を見据えた学校施設のあり方や通学区域の見直しを視野に入れる必要がある。
- 本市の教育に関する重点施策である「時代の変化に対応した学習環境等の整備」、「子どもが健やかに育つ環境を整える」、「学校を核とした地域づくり」を念頭に検討をする必要がある。

【取組等】

- 学校選択の受入枠は、受入の可否も含め、児童生徒数の見込みや施設の状況を踏まえ適切に対応できるよう努めている。
- 地域によって、児童生徒数と学級規模に差が生じている中で、学習指導要領に基づき、実情に応じた適切な教育を実施している。
- 社会に関われた教育課程の実現に向けた取組を推進するとともに、西東京市立小中学校全校において、教育活動に関するホームページの更新を行い情報発信している。